

令和7年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 69 ） 学校名 豊田市立御蔵小学校

1 テーマ

『御蔵の魅力』地域にある自然や人を生かして学び、発信しよう

2 ねらい

地域の自然や人々と関わったり、主体的に地域に働きかけたりすることで、子どもと地域の距離は近くなる。御蔵の風土に見守られながら、子どもたちは多くの知恵や生きる力を受け継ぎ身につけていく。それら貴重な体験を積み重ねることで自分の生き方を考え、能動的に行動する力が育つと考える。この地で多感な少年少女時代を過ごした体験が、将来の人生に深く関わっていくように、計画的・系統的に特色ある活動を仕組む。このことを学校づくりの視点として掲げ、本事業を推進していく。

- （1）豊かな自然と地域の温かい人々との交流を通してそこに根付く伝統や文化から良さや知恵を学び生きる力を身につける。
- （2）様々な活動を通して、自ら学び・考え・主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を育てる。さらに、学んだことを地域に発信することでコミュニケーション能力や地域を愛する心を育てる。
- （3）校内整備の充実を図り、安心・安全な学校の環境を整えるために校内整備員を活用する。（花壇の花の整備や校内草刈）

3 活動内容

（1）4学年 「御蔵のよさを知ろう」

「知ろう！伝えよう！御蔵の自然」をテーマとして、畑での野菜作りとツバメの観察の2本柱で活動を行った。野菜作りでは、8種類の野菜を育て、こまめに水やりや草取りをしながら、苦労して育てた野菜が大きく育って収穫できた喜びを味わうことができた。また、育てたサツマイモのつるを使ってクリスマスリースを作ると、「捨てるもので作れてびっくりした」「リユースの活動になってうれしい」と、エコの視点で考える姿も見られた。ツバメ観察では、校舎にできたツバメの巣とそこで子育てをしたツバメの様子を観察し、生き物の命や学区の環境の豊かさについて知ることができた。また、学区の野鳥観察会を行い、自然豊かな地域であることを再確認することができた。

野菜作り後の感想で、「自分で育てたものを食べたからおいしく感じた」という言葉が聞かれた。自分たちで作る経験ができたことは大きな意義があった。ツバメの観察は、マイクロスコップを使ってリアルに観察ができたことで、初めてツバメのヒナを見たときの児童の感動した様子は、写真や映像では決して伝わらないもので、とても貴重な体験となった。

（2）高学年 「御蔵のよさを守ろう」

「米作りの達人になろう」の活動では、学校内の田んぼでの米作りをした。昨年、お米の収穫ができなかったため、その反省を生かして活動した。昨年と違い、実はたくさんついたが収穫前に動物に食べられてしまい、収穫することができなかった。それでも、稲刈りをし

た後のわらを活用してわら細工を作った。また、観察のために、バケツで育てた稲は、収穫できたので、少しの量だが、手作業で脱穀・もみすり・精米を体験した。「米作りは、手作業が多いので大変だったが、お米を作ることの大変さがわかった」「稲に実がついて、うれしかったが、もうすぐ収穫というところで、動物に食べられてとても残念だった。来年こそは、収穫したい」と体験から学びを得ていた。

「御蔵の歴史で伝えたいこと」の活動では、地域に「防空壕」が残っていることに疑問をもつ子がいた。防空壕の近くの家に住む地域の方（現在95歳）に話を聞くことができた。防空壕を作った理由とともに、戦争は、戦場に行く人や空襲が怖いだけではなく、食料や生活に必要なものがなくなり、どんな場所でも大変な思いをすることを学んだ。実際に体験した人の話を聞くことでその大変さを知り、平和な世の中を作っていくために、自分たちがこれからできることを考えることができた。「お腹がすいて、草や木の実も食べていたと聞いて驚いた。わたしはそんな経験はしたくないので、戦争の時はこんなに大変になるということ伝えていきたい」という気持ちをもった。

4 成果と課題

総合的な学習の時間に探究したことを伝える機会としている「円山学習発表会」には、保護者が100%参加してくださった。本年度は地域の方等にも案内を配付することで、10名の方が学校に足を運んでくださった。「戦争の話はとてもいい、貴重な体験でしたね」「オレンジ色のツバメが存在することを知り勉強になりました」「歴史を感じさせる場所をマップにしてあり分かりやすかった」「少人数でも内容が奥深く、わずか1時間でしたが参加してよかった」などの感想をいただいた。保護者アンケートでは、「特色ある学校づくり推進授業を活用し、特色のある教育活動を行っているか」の質問項目で、「とてもよい」57%、「よい」43%で評価の平均は3.6であり、高評価をいただいた。学校自己評価でも3.6であり、教師が力を入れてがんばっていることが保護者にも届いているとわかった。

本年度は地域人材を活用したいと考え、報償費の予算を申請した。前年度の計画時や本年度の年度初めにも各担任の先生方には地域人材の活用をお願いし、各学級2回程度の活用を考えていたが、計5回の活用に終わった。子どもたちの興味関心に沿いながら実践していくので、計画とは変わった。しかしながら、地域のもの・人・ことを活用して地域を知ることは、子どもたちの土台をつくることにもつながると考えるので、来年度も地域へ目を向けることを続けていきたい。